

国際交流事業報告書

2018

松山東雲女子大学
松山東雲短期大学



□連携交流センター長あいさつ

日頃より松山東雲学園へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。松山東雲女子大学・松山東雲短期大学連携交流センター長より、皆様方に一言ご挨拶とご報告を申し上げます。

このたび、「松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 連携交流センター 国際交流事業報告書 2018」を刊行する運びとなりました。今回この刊行に際し、ご支援・ご尽力下さった方々へ厚く御礼を申し上げます。皆様には是非、ご一読頂きますようお願いを申し上げます。

さて今回はこの紙面をお借りして、当センターが展開する事業の中の国際交流関連事業と、本年度の活動状況に関して、簡単にご報告申し上げます。事業内容としては、「海外協定校からの外国人留学生の受入業務」、「外国人留学生の生活支援業務」、「国際交流フレンドシップ制度による外国人留学生と日本人学生との相互交流活動の推進」、更には「日本人学生の海外大学等への派遣プログラムの企画立案・実施」をその主たる業務としております。

まず、「留学生の生活支援業務」ですが、本学への留学生たちに松山市での円滑な留学生活を送ってもらうため、入国手続き、入学前の生活や学習指導に始まり、日本文化理解のためのガイダンスを計6回実施しました。このガイダンスの内容は、日本での生活・本学での学習上の注意点、資格外活動（アルバイト）をはじめとする入国管理局関連の様々な手続きや注意点等の説明や指導、留学期間終了後の進路相談・指導等々と非常に多岐にわたります。

また、留学生と日本人学生たちとの相互交流をはかる活動である「国際交流フレンドシップ制度」では、今年度も多くの日本人学生に協力して頂きました。フレンドシップメンバーとの交流会、内子町へのフィールドトリップ、東雲祭でのバザー発表、クリスマスパーティー、チャペルアワーでの報告会などを通して、留学生たちの母国と日本との相違を認識することで、相互の他文化理解と共生が促進されました。

さらに、学外の企業・各種団体様や地域の皆様からは、本年度も多くのご支援とご協力を頂戴致しました。俳句の手ほどきでお世話になった松山南ライオンズクラブと俳句結社「花信」の皆様、「桑原まちづくり協議会」の地域の皆様方には、料理作りを通じた交流の機会でお世話になりました。大変ありがとうございました。

奨学金の関係では、「関奉仕財団」、「済美会」の各皆様から、留学生たちへの多額の奨学金というかたちでご支援をいただきました。この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

「日本人学生の海外大学等への派遣業務」では、今年度は語学文化研修ではオーストラリアの西シドニー大学へ学生を送り出し、貴重な体験を積むことができました。



以上、連携交流センターにおける国際交流関連業務のご案内と本年度のご報告を申し上げます。今後も当センターでは、微力ながら四国で唯一の女子高等教育機関として、民間レベルでの国際交流に寄与して参る所存です。皆様方におかれましては、本学の国際交流事業に更なるご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学
連携交流センター長 市河 勉

□国際交流事業概要

国際交流は、本学に在籍している外国人留学生が充実した大学生活を送るための支援、ならびに在学学生を対象とした海外の協定大学への海外留学プログラムの実施を主な活動としています。

まず、外国人留学生に対しては、「日本の文化・歴史・産業などを直接体験する研修」や「地域や日本人との交流」などを企画・実行しています。これは、外国人留学生が日本語の勉強のみならず、日本に関する多くの事柄に直接触れながら学んでいくことを目的としています。また、外国人留学生が安心かつ安全な生活を送るために、日常生活上での助言などを広範囲な分野で行なっています。

次に、在学学生に対しては、海外の協定校への学生派遣（留学）を実施しています。これは、各学生が短期・長期にわたって、海外の教育機関での語学研修や異文化交流・体験などにより、幅広い知識や視野を獲得することを目的としています。

外国人留学生と日本人学生が、これまで述べてきた実施案内を通して、母国とは違う言葉や文化の中でグローバルな視点や新しい感覚を習得してほしいと願っています。

連携交流センター員

連携交流センター長：市河 勉

連携交流センター員：佐伯 三麻子・三宅 英典・宮地 克典・黒川 真季・河内 奈穂
中島 登代美・高山 朋子・楊 泓

□留学生ガイダンス

日本で充実した留学生活を送るために心得ておかなければならないことの助言・指導のため、国際交流部は定期的に留学生ガイダンスを実施しています。2018年度は、6回実施しました。



□研修旅行

○ 連携交流センターフィールドトリップ「内子町を満喫する旅」：2018年12月8日（土）



12月8日（土）に私たち留学生は、日本人学生と一緒にフィールドトリップで内子町へ行ってきました。

私はこのフィールドトリップで内子町の古い歴史や伝統的工芸について、いろいろ学びを深めました。蝋燭の作り方や壁の構造なども非常に面白かったですが、一番印象に残ったのは窓の構造でした。折りたためる窓は空間を節約できますので、素晴らしいアイデアだなと思いました。

日中間の歴史的な文化交流の影響もあってか、日本の伝統的文化は中国のものに似ているところがあるように感じましたが、日本独自の魅力もたくさん発見できました。この「独自性」が日本文化を支えている力でしょう。

お昼はファーム・イン RAUM 古久里来（こくりこ）で窯焼きピザを体験しました。この日は想像以上に寒かったです。それにもかかわらず、私たちは話し合いながら、楽しくピザ作りに挑戦しました。それに勝る温もりはないと思います。

今回のフィールドトリップを通して、私はまた新しい日本人の友達が出ました。みんなと一緒にいろいろなお話をして、笑っている時間は最高です。有意義な一日を過ごさせていただき本当にありがとうございました。

（報告者：心理子ども学科 心理福祉専攻3年生 趙 心語）



□大学祭（東雲祭）

2018年11月17日（土）～18日（日）

今年も展示バザーと販売バザーに出店しました。展示バザーでは、連携交流センター主催の「海外語学・文化研修プログラム」に参加した日本人学生がプログラム内容を掲示しました。販売バザーでは、中国とカンボジアの留学生が、「地域魅力発見隊」同好会とコラボをして、「国際交流フレンドシップ制度」に登録している日本人学生達と共に、愛媛県今治市の郷土料理—センザンキに挑戦しまし



た。二日間とも好評のうち完売いたしました。

□国際交流フレンドシップ制度

日本に新しく来た留学生と本学の日本人学生が一緒になって相互の文化交流を行う目的で、2007年度に立ち上げたこの制度は今年度も留学生が、パートナーとなっている日本人学生と交流活動をしました。

2018年度活動内容		
回	時間	内容
1	5月31日(木)	マラ工科大学短期留学生と交流
2	7月12日(木)	留学生による民族衣装の紹介
3	12月13日(木)	「クリスマスパーティー」
4	1月24日(木)	留学生卒業予定者送別会



□地域との交流

○俳句教室（松山南ライオンズクラブ主催）：2018年6月9日（土）

私たちは6月9日に、中国だけでなく様々な国からきた留学生たちと一緒に、松山南ライオンズクラブ主催の俳句、お抹茶の体験に参加しました。今回の体験で、私たちは茶道のマナーとお茶の飲み方を知ることができ、とても嬉しかったです。

お茶の体験が始まる前に、先生はまず私たちに茶席での挨拶のマナーを教えてくださいました。茶室に入ったら、正座して閉じた扇子を前に置いて挨拶しなければならないそうです。そのことを教わった後、茶菓子をいただきました。お菓子はキウイのような形がしていて、とても可愛くて、美味しかったです。続いて、先生はお茶を出してくださいました。お茶を飲む前に、先生からお茶を飲むときのルールを教わりました。お茶碗の正面を避けて口をつけるのが基本であるそうです。以上に気をつけつつお茶を飲み干したら、お茶碗の正面に可愛い太鼓の絵を見つけました。その後、私たちは自分で抹茶を点てることも体験しました。先生が作ったお茶の味とは全く比べものにはなりませんが、自分で点てたお茶も美味しく感じました。

今回の体験会でとくに、私は茶道における礼儀に興味を持ちました。大学で弓道を勉強したとき、弓道が礼儀を重視するスポーツであるということに気づきました。茶道はその弓道と同じで、礼儀を重視しており、これらの様々な礼儀は日本人の相手への敬意と思いやりを表していると思います。茶道の体験を通して、日本の伝統的な礼儀も勉強することができ、とても楽しかったです。

(報告者：心理子ども学科 心理福祉専攻4年生 朱 詩麗)



○「異文化交流料理会」(桑原まちづくり協議会との共催)：2018年7月14日(土)

桑原まちづくり協議会・異文化交流会が本学留学生や学生をはじめ、桑原中学校の皆さんの皆さんなど、総勢約料理作りとしては、今キ、お好み焼き、鯛めの郷土料理そば米汁など統芸能を学ぶということ皆さんが獅子舞を披露し学生は中国とカンボジアをしてくれました。



との共催で、第7回食文で行われました。本学のまちづくり学生部の皆さん、桑原まちづくり協議会50名が参加しました。治の郷土料理センザンし、鯰のステーキ、徳島でした。食後は日本の伝で、まちづくり学生部のてくれました。本学の留の民族衣装の紹介と試着

今回の交流会でたくさんの人と交流することができました。また、交流を通して異文化を知るとともに日本の文化について考える良い機会にもなりました。

□海外協定校との交流

○マレーシア マラ工科大学短期交流プログラム：2018年5月21日(月)～6月1日(金)

松山東雲女子大学と協定校であるマレーシアのマラ工科大学との短期交流(受け入れ)プログラムが、5月21日(月)から6月1日(金)まで実施されました。マレーシアから2名の学生が参加し、松山滞在中は女子大学の講義やゼミを受講し、両大学の学生間で意義のある交流が行われました。また、部活体験として、書道が一らず、着装部(浴衣の着





付け)、邦楽部の活動にも参加し、日本の伝統文化にチャレンジする一方で、マレーシアの社会や文化の紹介をするなど、積極的な異文化交流が展開されました。また、東雲中高の授業や東雲学園付属幼稚園も見学しました。その他、砥部焼見学や伊予かすり会館で藍染めの伝統工芸も体験し、日本文化への理解を深めました。自由時間には、松山東雲女子大学の学生チューターと交流を深め、市内散策などを行いました。滞在期間中、ホストファミリーが留学生たちの面倒を大変良く見てくださり、プログラムの初日からラマダン（断食月）の時期と重なっているなかで、温かいご対応と更なるお気遣いを頂きました。プログラムの最終日には、お二

人は松山での滞在を振り返り日本語と英語でのスピーチと、滞在の様子を映像でも発表しました。それら全てのプログラムが終わった後、プログラム修了証書が授与されました。短い滞在でしたが、ホストファミリーや東雲の学生や松山のことをとても気に入ってくれた様子で、「2週間、大変お世話になりました。ありがとうございました。」と喜んでいました。

○中国 江南大学短期交流プログラム：2018年6月18日（月）～6月29日（金）

松山東雲女子大学との協定期交流（受け入れ）プログラム6月29日（金）に実施されま

学科の2年生2名が参加しま
松山滞在中は、女子大学や短
ことに加えて、東雲中高の授業
期大学の授業やゼミでは江南
国の子どもの遊び方、子どもた
て、パワー・ポイントで日本人
学外での学びの体験について
ニ・インターンシップを実施し
生達は座学やお辞儀の練習
もてなし、日本におけるビ
企業文化について、学ぶこ
日本の伝統文化に触れても
一らず、着装部、茶道部、弓
しました。留学生達は初め
た初めて弓道道着を試着し
た。こうした部活体験を通
い勉強になったようです。
をさらに深めるため、伊予



である中国の江南大学との短
が、本年度も6月18日（月）～
した。今年は、江南大学日本語
した。

期大学の授業、ゼミに参加し
も見学しました。女子大学や短
大学における学びの様子や、中
ちがよく食べるお菓子につい
の学生に紹介してくれました。
例えば、今年も愛媛トヨタでミ
ました。短時間でしたが、留学

等を通して、日本人のお
ジネスマナーの基本等の
とができました。そして、
らうため、邦楽部、書道が
道部の活動も見学、体験
て日本のお琴を弾き、ま
て、とても喜んでいま
して、日本文化に触れ、い
日本の伝統文化への理解
かすり会館で藍染めの伝



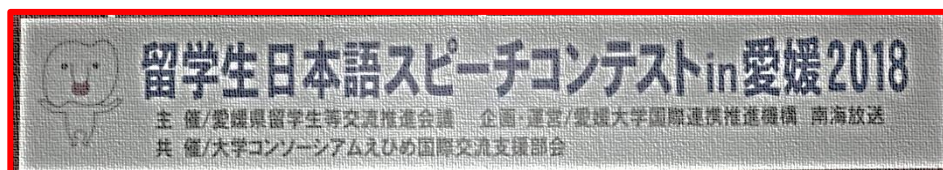
をさらに深めるため、伊予
伝統工芸、亀井製菓で和菓子作りを体験するプログラム等にも参加しました。自由時間にはまた、道後温泉や松山城を見学し、積極的に異文化体験をしました。

留学生達は2週間の滞在期間中、ホストファミリー宅でお世話になりました。今年もホストファミリーを引き受けてくださったご家族の方が、よく面倒を見てくださり、学生たちは楽しく2週間を過ごせて大変喜んでいました。最終日には、松山での滞在を「松山観察日記」として、本学の学生や教職員の前で分かりやすく流暢な日本語で発表し、塩崎学長先生よりプログラム修了証書を授与されました。短い滞在でしたが、東雲の授業や松山での生活に大変満足した様子で「2週間のプログラムを通して、日本をもっと好きになりました。機会があれば、また来たい。」と感謝の言葉を述べてくれました。



スピーチコンテスト

○「留学生スピーチコンテスト in 愛媛 2017」(愛媛県留学生等交流推進会議主催) : 2017年11月5日(日)



11月4日(日) 南海放送本町会館にて、「第15回留学生日本語スピーチコンテスト in 愛媛 2018」(愛媛県留学生等交流推進会議主催)が開催されました。今年の出場者は、7か国15名の留学生です。

松山東雲女子大学からは、4年生の朱詩麗さんが出場しました。朱さんは、昨年に引き続いての出場(通算2回目)となりました。

朱さんは、「松山への思い」を題に、身近に感じている文化面における松山の独特な魅力を、流暢な日本語で述べました。残念ながら入賞はできませんでしたが、正々堂々と自身の思いを込めた素晴らしいスピーチを披露してくれました!

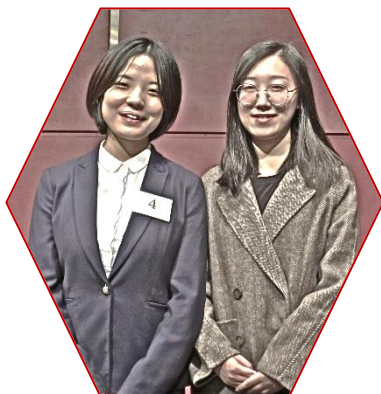
朱さんは、本学卒業まで松山の魅力を探し続けるそうです。松山での今後の留学生活においても、良い思い出が沢山出来そうです。東雲留学生の更なる活躍期待しています。

以下は朱さんの原稿です。

【朱 詩麗さん】

松山への思い

松山市は静かな都市です。これは私が松山市に着いて、すぐ感じたことです。私は初めて松山市に来たとき、タクシーで空港から都心を抜けて学校へ行きました。途中で、道路が込んでいても、クラクションが聞こえませんでした。歩道を歩いていた人は少なかったです。みんなは大きな声も出さずに、静かに歩いていました。「静かだな」これは松山市が私に与えた第一印象でした。松山市はいつも静かでした。でも、私は松山市の賑わいを感じたこともあります。それは去年の土曜夜市のときでした。普段、人が少ない商店街は非常に込んでいました。みんなは綺麗な浴衣を着て、美味しいものを食べながら歩いていました。人々は大声で話したり、笑ったりして笑い声はあちこちに溢れていました。賑わいに慣れていました。したがって離感や冷たさを感じました。しかし、土を見せてくれました。賑やかな雰囲気でした。



松山市は歴史のある都市です。私なので、松山市はもっと賑やかな都市私の想像と違いました。地下鉄もない意外に高いです。バスは30分に一本あります。人も少ないし、病院へ行ったとき、高齢のおじいさんとおばあさんばかりです。多くの点から見て、松山市は賑やかな都市だとは言えません。しかし、多くのところから、この都市の歴史、伝統と文化を感じることができます。3000年の歴史を持っている道後温泉、多くの遺跡を保存している松山城、非常に賑やかな秋祭り、俳句など、歴史と文化の香りは松山市のあちこちに漂っています。松山市に住んで一年半の間に、私は何度も松山城に登って、瀬戸内海を眺めたことがありました。伊予絣会館へ行って、藍染めを体験したこともあり、偶然に道端の石碑に刻まれた美しい俳句を見て、写真を撮ったこともありました。松山市の伝統と文化は私の生活に大きな影響を与えました。松山市は経済面では、大都市に及ばないですが、文化面では、独特の魅力があります。私は松山市の魅力を身近に感じることができ、とても良かったと思っています。

ポポポ〜 今日も坊ちゃん列車が元気いっぱい松山市内を走っています。私も卒業まで「松山魅力号」という列車に乗って、松山市の魅力を探し続けます。皆さん、一緒に行きませんか?

○「外国人による日本語弁論大会」(松山湯築ライオンズクラブ主催) : 2018年11月25日(日)

11月25日(日)いよてつ高島屋8階スカイドームにて開催された、第12回「外国人による『にほんご』弁論大会」(松山湯築ライオンズクラブ主催)に、松山東雲女子大学から趙心語さんが出場しました。趙さんは、日本に来てから肌で感じた「日本人の挨拶の大切さ」について、流暢な日本語でスピーチしてくれました。今年の弁論大会は3か国14名の外国人が出場しました。残念ながら趙さんは入賞できませんでしたが、正々堂々と良い弁論でした!

以下は趙さんの原稿です。

【趙 心語さん】

挨拶していただきありがとうございます

私は初めて日本に来た時、まだ挨拶をする習慣がありませんでした。日本人に挨拶された時、恥ずかしく微笑むしかできませんでした。「日本ではちゃんと挨拶なさいよ!」と私は先生に言われました。先生にそう言われた私は人から挨拶されると、仕方なく返事をしていました。私は日本人の礼儀文化はめんどくさいと思いました。



七月末、私はアルバイトを見つけました。初めて日本の社会で働くので、私はとても緊張しました。先生の言葉を思い出して、私は丁寧に挨拶しようと思いました。

しかし、アルバイト先で私は「おはようございます」と挨拶されました。

え?おはよう?私はびっくりして、時計を確認しました。午後六時でした。店の人が説明してくれて、私は「おはようございます」は「Good morning」だけの意味ではないのを知りました。「おはようございます」は「一緒に頑張りましょう」という気持ちも伝える挨拶だとわかりました。つまり、挨拶を通じて、私たちはさまざまな気持ちを伝えることができるのではないのでしょうか。多分、それは「絆」というものだと思います。日本では毎日挨拶で始まり、挨拶で終わります。人生もその通りです。生まれたばかりの赤ちゃんに「来てくれてありがとう」や亡くなった人に「お疲れ様でした」を言うことも聞きました。挨拶の文化は日本人の体に深く刻まれています。



しかし、現代の日本社会は「無縁」の危機に直面しています。

「無縁社会」、それは悲しい言葉だと思います。私たちは同じ社会で生きていて、同じ空気を吸っているのに、どうして「無縁」になってしまったのでしょうか?通信手段が変わったのは一つの原因かもしれませんが、スマホなどを使って、簡単に通信することができます。しかし、対面しなければ、相手の暖かさを感じられません。向き合って会話することが重要です。人々の中には機械的に挨拶する人もいます。機械的に挨拶し、機械的に返事する会話は意味がないです。気持ちのこもっていない言葉は言葉ではありません。言葉で伝える気持ちはどんな気持ちでもいいと思います。久しぶりに会った家族に思いを伝えたり、片思いの相手に気持ちを打ち明けたり、嫌いな相手に文句を言ってもいいと思います。日本人の挨拶には、様々な気持ちが込められています。そうした挨拶をもっと大切してほしいと思います。

ある日、私は郵便局からの帰り道で、あるお婆さんと出会いました。お婆さんは家の前で花を植えていました。車が通り過ぎ、一面夕焼け空の景色になりました。その中で、私とお婆さんだけの静かな時間が流れました。言葉で表せない感情が私の心に溢れました。

「こんにちは。」と私はお婆さんに挨拶しました。

お婆さんは頭を上げて微笑んで、返事してくれました。

「こんにちは。」

その言葉は、音楽より心地よい響きでした。

日本の皆さん、挨拶していただき本当にありがとうございます。



□チャペルアワーでの報告

○「留学生チャペルトーク」：2019年1月8日（火）

中国出身の朱詩麗さん（4年生）、趙心語（3年生）さん、カンボジア出身のスロ・リスラエンさん（2年生）は、それぞれの留学生活について報告しました。

以下は3人の原稿です。

【朱 詩麗さん】

私は中国からの留学生朱詩麗です。今、四年生です。私は2017年の春に、松山市にきました。そのとき、私は3年生でしたが、新入生として、ウェルカムセミナーに参加しました。皆さんと一緒にとべ動物園を見学し、ポスターを作り、自分の感想を発表しました。これらは私にとってすべて体験したことがなかったことです。従って、ウェルカムセミナーをきっかけにして、私は高い期待を持って、日本での新しい生活を始めました。

2017年に、私はたくさんのことを体験しました。松山城、道後温泉を見学し、松山市の歴史と文化を感じました。久万高原町に行って、愛媛県の自然の風景を見ました。学校で、私は日本語を勉強するとともに、社会学、経済学、心理学に関する授業を受けて、幅広い知識を勉強しました。また、日本の文化をもっと深く理解したいと思い、私は弓道部に入部しました。暑い夏何回も弓道を練習していても参加しました。この過程さを感じました。矢を射るとときの喜び、試合に参加は私にとってとても大切なと部活以外に、私は様々なも参加しました。日本で、たくさん知ることが抹茶の体験会で、俳句道の魅力を感じました。体験では、日本の伝統的

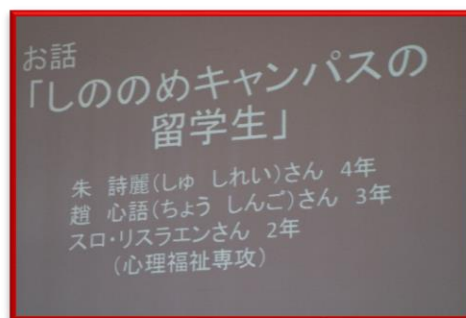


感謝

た。地域の食文化、異文化交流会にも参加しました。門松づく体なお正月の過ごし方を知りました。2017年に、私は多くの面で勉強になり、成長するようになったと思います。例えば、日本に来たばかりの時、私は日本語が下手で、日本人とうまく交流できなかったのですが、2017年の12月に、留学生の日本語スピーチコンテストに参加し、受賞しました。日本に来る前に、日本に対して理解が不足でした。1年間で日常生活のいろいろな面から日本や日本人をもっと理解するようになりました。

2018年にも、私は多くの文化体験活動に参加しました。伊予かすり会館で、私は日本の伝統的な藍染を体験しました。留学生向けの宇和島バスツアーを通して、私は真珠の養殖を見学し、真珠の分け方を知りました。内子町への見学で、たくさんの明治時代の建物を見ました。同じ活動に参加しても、違うものを勉強しました。例えば、俳句と抹茶の体験会では、私は茶道の礼儀に対して興味を持ちました。茶道は弓道と同じ、礼儀を重視します。これらの様々な礼儀を通して、日本人が相手への敬意、と思いやりを感じました。私の卒業論文のテーマは訪日中国人の観光動向と受け入れ対応についてです。松山市の事例から受け入れ対応の考察から、私は松山市の観光現状を調べました。松山市に来る中国人の観光客がまだ少ないですが、過去と比べれば、増えています。松山市は中国人観光客の誘致にまだ多くの課題を解決しなければならないですが、いい成果をあげています。私は調査中に、松山市の多くのいいところを発見しました。松山は地方都市ですが、歴史、伝統、文化に独特の魅力があります。私はこの魅力を身近に感じることができ、とても良かったと思っています。

この2年間を顧みて、私は日本に来て、美しい風景を見て、豊富な文化を体験し、いい勉強しました。東雲女子大学で、日本人学生と一緒に授業を受けて、学園祭を準備して、交流活動に参加して、素敵な時間を過ごしました。また、先生たちのご指導で、卒業論文を書き、幅広い知識を勉強しました。誠にありがとうございました。卒業まで、私は引き続き学業に努力し、交流活動に積極的に参加したいと思っています。



【趙 心語さん】

2018年の春、私は江南大学の友達や先生と分かれて、松山へ来ました。私は二十年間にずっと住んでいる国と違う風景を見ました。

不安がないと言うとウソです。日本語をまだうまく話せない私にとって、何かを買うや鉛筆を借るような日常生活の中に当たり前のことが全部チャレンジとなりました。

しかし、チャレンジがあるとしたら、必ずチャレンジャーがいます。私はチャレンジします。ありがたいのは、チャレンジャーは私一人ではないです。

中国の先輩が私を連れて、松山城へ行きました。桜が満開で、春の松山城は本当にきれいでした。勇気を出して、私は日本人にわからない単語を聞きました。その時から、「松山の人々は優しい」という印象を持ちました。ウェルカムセミナーの時私は初めて日本人の友達ができました。わからないところを説明してくれるために、日本人の学生たちが日本語も英語も使いましたが、頑張った様子がすごくかわいかったです。

先生たちのおかげで、私は愛媛の綺麗な風景をたくさん見ました。この写真は岩屋寺と面河です。ちなみに、面河の魚が想像以上美味しかったですよ！地域魅力発見隊の学生たちと一緒に久万高原でした畑仕事の体験も最高でした！

私が松山の生活にだんだん慣れてきたときに、イサさんとザラさんが来ました。皆さん覚えていますか？マレーシア出身の彼女たちは私と一緒に授業を受けて、着物や書道などの見学にも行きました。英語とマレーシア語しか使わない彼女たちは短い時間で松山の生活になれました。私は驚きました。今でも、私はザラさんと時々連絡しています。外国人として、私たちが日本で友達になったのは奇妙な縁ではありませんか？

私の後輩、江南大学からの留学生も東雲で短期交流しました。イザさんとザラさんがいた時のように、私たちはいろんなところへ行って、いろんな活動を体験しました。本当に楽しかったです。

サークルが新部員を募集した時、私は書道ガールズに入部しました。中国の大学のサークルと同じように私はここにも家の暖かさを感じました。

もう一つ重要なチャレンジはアルバイトです。私は東雲の留学生の大先輩が紹介してくれたうなぎ屋さんでアルバイトしています。とても優しいご夫婦が経営しているお店です。私たちはすごく仲が良いです。

秋に、後学期が始まりました。私は授業の内容が大分わかるようになって、日本での生活もなれました。外国人向けのバスツアーやスピーチコンテストを通して、私は中国やヨーロッパの友達もできました。留学生たちが日本に来た理由は違うのに、日本で生活する楽しい気持ちはみんな同じです。楽しい事や悲しい事や、全部ここの生活です。この一年間、私の日本語能力は来た時より高くなりました。日本語の他に資格試験もチャレンジしました。充実した一年間でした。



皆さんに報告したいことがもっとももっとあります。友達に手作りのお菓子をもらった時のうれしさ、花に隠れたテント虫を見つけた時の喜び、打ち上げ花火を見たときの感動…このような幸せなことを、私は松山で体験しました。私は嬉しいです。なぜならば、こうした幸せな体験ができたのは、幸せなことをやってくれた皆さんがいるからです。皆さんがいなければ、私は今の私になっていないと思います。皆さんが私の側にいるから、私の留學生活がこんなに素晴らしくなることができます。

今の私は、不安がありません。私を支えてくれる人がいることを知っていますから。

私はまだたくさんやりたいことがあります。残りの一年間、私は必ず今年よりも時間を惜しみ、もっと頑張りたいと思います。

「松山の皆さん、去年、大変お世話になりました。

今年もよろしく願います！」

【スロ・リスラエンさん】

私はカンボジアから来て、5年間日本に留学しています。私にとっての留學生活は、時には大変なこともありましたが、人生を変える素晴らしい経験になりました。日本に留學することを決める前に、さまざまな不安がありました。海外に留學しに行ったことのある方は間違いなく知っています。それは海外で暮らす、勉強するとい



うことは言葉の壁はもちろんのこと、慣れない環境で戸惑うことも多かったと思います。私の経験からでいうとそうでした。毎日新しい経験の連続で、カンボジアで生活しているだけでは味わえない感動・驚き・困難が多かったです。

私にとって一番困難なことは、漢字でした。高校1年のときまったく漢字ができませんでした。漢字が読めない、書けないことから留学生生活をスタートしました。毎日、必死で漢字の勉強をしました。1年間ほどで国語の授業についていくことができるようになり、仲間もできて、そこから落ち着いて高校生活を送ることができました。国語の授業の他に日本史が難しかったです。いつもギリギリ欠点になる点数しか取れなかったのです。高校時代悔しいこともありましたが、決して忘れられない嬉しかったこともありました。いまだに私の心を温めてくれています。それはシスターに出会ったことです。シスターはとても優しく、勉強面から生活面まで3年間ずっと面倒を見てくださいました。遠く親から離れていても、シスターがいてくれたことで、まるで母親といたような気持ちでした。



大学生になってからはさらに多く新しい経験をしました。それらの経験は日常生活とアルバイト先から得られました。私は大学一年生でアルバイトを始めました。アルバイトした目的は家賃代と日常の食費のためでしたが、いい勉強にもなりました。日本語を活かして、カンボジア語版の避難勧告、大雨・台風に関する緊急カードの翻訳をしたり、また県庁で中村知事の通訳もさせていただきました。また今年のお正月には、朝日テレビにも通訳を頼まれました。これも私にとって貴重な体験になりました。アルバイトをしてよかったです。社会の勉強はもちろんとこと、おしゃべりが苦手な私でもべらべら話せるようになりました。もう一度生まれ変わった気がします。



大学の行事ではいろいろなプログラムに参加しました。2017年は留学生研修旅行で広島原爆ドームに行きました。去年は四大学バスツアーで宇和島の土居真珠に行きました。それと12月8日に内子町のフィールドトリップに参加しました。日本に留学して良かったと思います。私は今まで味わえない、見たことのないことをたくさん学べました。特に嬉しかったのは日本語能力検定1級に合格したことです。これは私の最大の目標でした。次の目標は大学を卒業することです。そして、日本語会話の練習のため何かのサークル活動に入りたいと考えています。ここでずっとお世話になっている先生、友達、そしてずっと支援して下さったみなさんに感謝しています。あと2年間この大学にいますので、みんなと仲良くしたいです。これからもどうぞよろしくお願いします。

□その他の活動

○「愛媛の4大学留学生で行く「しまみ経行」バスツアー」の参加について

2018年10月27日、私たち東雲女子大学の留学生たちは愛媛県にある他の3大学の留学生と先生方と一緒に、宇和島へ行きました。

真珠はどうやって生まれるのか、前から知りたくて、こ私たちは真珠の養殖場で真珠のことが出来るまでは、手順において最初は貝を切り離して、核を入細かくて、丁寧です。核入れを見悪い真珠の見分け方も学びました。質の良い真珠の色はピンク。私は今まではどうして真珠ができていました。このように、養殖場によって、真珠はただ、自然から出来たものではないというのがよく分かりました。バスツアーのおかげで、真珠のことを深く知ることができて、とても良かったです。大学を卒業するまでは、もう一度土居真珠へ行きたいです。



くるのか、前から知りたくて、こ私たちは真珠の養殖場で真珠のことが出来るまでは、手順において最初は貝を切り離して、核を入細かくて、丁寧です。核入れを見悪い真珠の見分け方も学びました。質の良い真珠の色はピンク。私は今まではどうして真珠ができていました。このように、養殖場によって、真珠はただ、自然から出来たものではないというのがよく分かりました。バスツアーのおかげで、真珠のことを深く知ることができて、とても良かったです。大学を卒業するまでは、もう一度土居真珠へ行きたいです。

愛媛の四大学の先生方や留学生のみなさん、バスツアーは大変お世話になりました。ありがとうございました。

(報告者：心理子ども学科 心理福祉専攻2年 スロ・リスラエン)

□奨学金受給感想文

- 「関奉仕財団留学生援助金」 朱 詩麗 (心理子ども学科 心理福祉専攻4年)

2018年一年間関奉仕財団留学生援助金をいただき、心よりお礼を申し上げます。



援助金のおかげで、私は金銭上の心配がなくなって、学業により一層専念して励めることができました。この1年間に、私は日本語を勉強するとともに、社会学、心理学、経済学に関する授業を受けて、幅広い知識を勉強しました。また、日本人の学生と交流し、一緒に課題を解決しながら、コミュニケーション能力、チームワーク力、プレゼンテーション力などたくさんのスキルを身に付けるようになりました。私は日本社会、文化に深い興味を持っています。従って、学校の授業以外に、様々な国際交流活動に参加しました。伊予かすり会館で、私は日本の伝統的な藍染を体験しました。留学生向けの宇和島バスツアーを通して、私は真珠の養殖を見学し、真珠の分け方を知りました。能と狂言の体験会で、私は日本の伝統的な芸能の魅力を感じました。

関奉仕財団の支援で、私はこの一年間に、貴重な経験をもらいました。誠にありがとうございました。これから、私はこの感謝の気持ちを忘れずに、もっと頑張りたいと思います。

- 「財団法人松山済美会留学生奨学金」 趙 心語 (心理子ども学科 心理福祉専攻3年)

私は松山へ来て、もう一年になりました。平岡先生のおかげで、私は非常に充実した一年を過ごしました。

「充実」とは何でしょうか？

それは多分、より強い自分を見つけたことだと思います。

故郷から離れ一人暮らしになって、私は時々寂しいと感じます。しかし、他者とコミュニケーションが必要ですから、私は書道ガールズに参加しいろんな見学にも行きました。そのため、日本人の学生さんだけではなく、私は他の国々の友達もできました。東雲祭で私は友達と書道のパフォーマンスをしました！それは「繫」であり、世界共通の「愛」とも言えるでしょう。それこそ、私たちが強くなることができる原因だと思います。

もう一つ先生に伝えたいのは、勉強の話です。私は「心理学検定・二級」の資格を取りました！そのような高いレベルではないですが、私はやっと自分の夢へ進んでいきます。私は日本の大学院へ進学して、心理学の先生になりたいと思います。困難を越えるではなく、自分を越えるべきでしょう。また、私は日本語能力試験やTOEICなどの試験も受けて合格しました。今年、その夢を叶うために私は頑張りを続けています。

この一年間、いろいろお世話になりました。ありがとうございました！



□海外プログラム

◆西シドニー大学語学・文化研修プログラム

担当教員 心理子ども学科心理福祉専攻 佐伯 三麻子

オーストラリアの西シドニー大学の語学文化研修に、今年は1名の学生が参加しました。現地での研修期間は2月9日から3月10日までの4週間。滞在はホームステイ。授業でも、ホストファミリー宅でも、英語漬けの毎日、参加学生は英語でのコミュニケーション力がかなり鍛えられたようです。ホストファミリーも西シ

ドニー大学の担当の先生方も、とても親切に学生の面倒を見てくれました。シドニーへのデイトリップや西シドニー大学の学生との授業交流、週末のホームステイならではのファミリーイベント体験などもあり盛り沢山でしたが、学生は持ち前の発想力と行動力で、クラスの仲間やホストファミリーともすっかり仲良くなり、もっとオーストラリアを知りたいとの思いを強くするほど満足のゆく研修になったようです。

【期 間】2019年2月9日～3月10日

【留学先】オーストラリア 西シドニー大学



参加学生の体験記

【西谷 明莉（心理子ども学科心理福祉専攻3年）】

私は、2月9日から3月10日の一か月間、オーストラリアの西シドニー大学短期留学に参加しました。大学に入学する前からずっと語学留学をしたいと思っていたので、オーストラリアで短期留学できたことを、とても嬉しく思っています。

オーストラリアに留学するにあたっての目的がいくつかありました。まず、語学の力を上げることです。次に、オーストラリアの福祉について学び、福祉についての知識を増やすことです。最後に、フィールドワークなどを通して日本とオーストラリアの違いを自分自身で実際に体感したいという目的がありました。

オーストラリアでの短期留学しました。一番に取り組んだことは、少しでも英語に触れるようにの時間には洋楽や英語のリスニングのCDを聞くようにしました。さらに、英会話教室に通って、ネをつくり、英語検定にも挑戦しま

英語の準備に加えて、オースト

めにナショナル・ポリス・チェックは、ボランティア希望者や、海外居住者が国内の病院や施設を訪問するときにも義務付けられます。質問項目や微妙なニュアンスでの質問も多くあり、登録申請にたどり着くまでにとっても長い時間がかかったのですが、無事に見学許可を得ることができました。

西シドニー大学の英語の授業は午前9時から始まり11時までであり、1時間の昼休みを挟んで、午後は12時から14時まで授業でした。授業1コマが2時間もあると知り、慣れるまではとても長く感じましたが、慣れていくとあっという間で、すぐに時間が過ぎていくように感じました。授業では、様々な国の留学生たちと英語の文法を主に勉強しました。日本と違って、椅子に座って先生の話しを静かに聞くのではなく、グループワークやディスカッションをする時間がほとんどで、常に英語を話す環境の中で学習をしました。初めは、自分の思っていることを発言することに恥ずかしさを感じ、上手く話すことができなかつたら嫌だと思い、意見を言うことに躊躇することがありました。しかし、先生やクラスメイト達がしっかりと意見を聞いてくれ、発言したことに対して、さらに意見を言ってくれるので、徐々に意見を言うことへの恥ずかしさや抵抗がなくなり、積極的に自分の意見を発言することができるようになりました。授業で発言することができるようになると自然とクラスメイトにも話しかけることができるようになり、休み時間などは互いの国の文化や学校のこと、家族のことについてもよく話すようになりました。

また、学校から帰るとできるだけホストファミリーとの時間をとるように心がけました。帰宅したらすぐにホ



ストマザーに学校での授業について話しました。ホストマザーはいつも、私の話を興味深く聞いてくれました。また夕食後には、ほとんど毎日、ホストファミリーと一緒にテレビを見るようにしました。初めはテレビを見ていても、話している英語の速度が速すぎて、何を言っているのか分からず苦痛に感じることもありましたが、時間がたつにつれて聞き取れる英語が増え、テレビを見た後に家族とテレビの感想を言うことが少しできるようになりました。次の日が休みの

日には、深夜まで映画を見てホストファミリーとの時間を過ごしました。私のホストファミリーはとても親切で、いつも優しくしてくれました。気になることがあり質問すると、私に分かるように詳しく説明してくれ、英語を勉強するときのアドバイスもしてくれました。

今回、私にとって特別な経験となったのは、オーストラリアで福祉施設を見学することができたことです。これは、あらかじめ留学プログラムの担当者にメールで伝えて、実現していただいたものです。見学した施設は、日本でいう社会福祉協議会のような所で、高齢者施設の情報提供や相談業務、独居老人へのボランティアなど様々な部署を統括している施設でした。そこで働いている方に様々な話をお聞きました。話を聞いて特に日本と異なっていた点は、高齢者に向けてのボランティアについてです。オーストラリアでは、ボランティアをする場合、ナショナル・ポリス・チェックを面接や研修を受け認められた人しかありません。日本でボランティアを行うと厳重なチェックを必要とすることは非常に驚きました。ボランティアのホームレス問題や高齢者施設などにした。さらに、話を伺った後は、オーサせてもらい、病院の様子を見ることの見学のおかげで、日本とオーストラリアの福祉の違いについて知り、さらに福祉について学んできたという気持ちが深まりました。



申請した後に、何度も繰り返しボランティアを行うことができない、オーストラリアのようなほとんどないので、この違いにと以外にも、オーストラリアについても話を伺うことができます。オーストラリアの総合病院にも同行ができました。今回の福祉施設

今回は一カ月という短期の留学だったので、週末や授業が終わってからは、ほとんど毎日出かけるようにしました。タロンガズーヤルナパーク、ブルーマウンテンや、ボンダイビーチやマンリービーチなどシドニー近郊の観光名所はほとんど訪れました。また、カフェ巡りが好きなので、様々な場所のカフェにも行きました。英語で注文するのが初めてで、何をどのようにしたらよいか分からず、店員の人にお任せで注文していたのですが、最後にはきちんと自分の欲しいものを伝えて注文することができました。

私はこの留学で、多くのことを経験しました。楽しいこともたくさんあったと同時に、上手くいかないことも多くありました。しかし、上手くいかないからといって悲観的になることはありませんでした。上手くいかないときは、焦る気持ちを落ち着かせて、一度しっかりと考え、どう動いていけばいいか判断して解決して行きました。どのような出来事も自分にとってプラスになったと感じます。私は、一カ月間オーストラリアに留学したことで、積極性が向上し、自分の視野が広がったように感じます。さらに、英語を話すことの重要性を実感しました。今回経験したことを活かして、これからの学びに繋げていきたいと思えます。

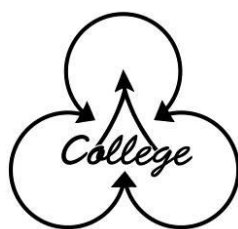


□2018 年度外国人留学生受入れ状況

人数	出身校
1	中国 江南大学

□2018 年度外国人留学生卒業生の進路状況

人数	進路状況
1	母国への帰国



松山東雲女子大学 松山東雲短期大学

〒790-8531 愛媛県松山市桑原3丁目2番1号

TEL 089-931-6211(代) FAX 089-934-9055

URL <http://www.shinonome.ac.jp>